

十島村教育委員会だより 令和6年6月号

さわやかトカラ情報

南北160km

「心をつなぎ 気概に満ちた」十島の教育

十島村教育委員会
〒892-0822鹿児島市泉町13番13号
TEL 099-227-9771

【十島村の文化財を保護・育成し有効活用していきます!】

十島村教育委員会教育長 木戸 浩

教育委員会の業務は学校教育ばかりでなく、社会教育や文化財の保護・育成も担っています。十島村には国指定の天然記念物が9件、国指定の重要無形民俗文化財が1件(悪石島のボゼ)、そして県指定の天然記念物が3件(トカラ馬、タモトユリ、諏訪之瀬島ナベダオのツクシヤマザクラ群)、村指定の文化財は5件で、今年3月に、諏訪之瀬島の「白水の滝」が加わりました。白水の滝は、落差283メートルで、日本3位に相当します。名勝としての登録になります。



白水の滝

その他に、平島の神山の巨木林(千年ガジュマル)と、ロ之島のアダン群(自生地の北限)に近い将来、村の文化財に指定できるように進めています。また、中之島の底なし沼周辺の植生群や、旧朝日分校跡にあるガジュマルの巨木群、中之島学園下の海岸にある隆起珊瑚礁、宝島の前籠港近くの植生群も非常に希少価値の高いものだそうです。これらを、村の文化財保護審議員の方々の協力を得ながら、調査を進め、村の文化財に指定し、その後、村の観光資源としての活用や、保護等を進めていきたいと思ひます。

【七島藺を使った畳表を展示】

七島藺(しちとうい)を使った畳は、1964年の東京オリンピックの柔道会場で使われました。丈夫で長持ちする特徴を、講道館館長の嘉納治五郎氏は知っていらっしゃったようです。

この七島藺は、名前のとおり十島村が原産のカヤツリグサ科という非常に丈夫な素材を使って畳表を制作したものだそうです。昔の十島村ではサワラなどを天日乾燥させる際に、この七島藺を使っていたそうです。

現在では、大分県の国東市で一部の農家の方が栽培され、畳表として使用されています。鹿児島県の畳工業組合の方が、昔の講道館に残された資料を基に、昨年の鹿児島国体に間に合わせるために、「柔道畳復元プロジェクト」として取り組み、復元した畳を十島村に寄贈していただきました。



七島藺の畳

フェリーとしまの待合室のターミナルに1畳ほどの畳が置いてあります。是非腰掛けて、肌触りを確認してみてください。

ロ之島には、平瀬海岸に七島藺の看板も掲げられており、島のあちらこちらに自生しています。中之島ではトカラ馬の牧場の住民センター前の湿地にたくさん自生しています。他の島でも、田んぼを作っていた水量豊富な場所には、まだまだ自生しているかもしれません。県の畳工業組合の方々はもちろん、大分大学も調査をしたいという申し入れもきています。

各学園においては、総合的な学習「トカラ科」で、こういう昔ながらの伝統的なものを調べ、今に活かすことができないか調査したり、まとめたり、そして発表したりして情報発信していくように取り組んでいるところもあります。

【民俗文化の伝統を引き継いで保存を】



悪石島 盆踊り

各島ごとに、盆踊りや様々な神行事などが、永栄と受け継がれていますが、高齢化と人手不足により、途絶えかけているものもあります。山海留学で多くの児童生徒も増えてきていますので、そういう担い手となって、伝承していくことができればと思います。また、できるだけ、その様子を写真や動画で保存しておいていただければありがたいです。

教育委員会としましても、できるだけ多くの伝統文化や、十島ならではの自然や史跡等を保護・活用していきますので、御協力をよろしくお願いいたします。



中之島 トカラ馬

【新聞に投稿 学校・学年は投稿時のもの】
令和6年4月29日南日本新聞「若い目」特集掲載

「公みんかんで、かんげい会がありました。新しく島に来た先生方と新一年生、りゅう学してきたお兄さんやお姉さんを、ごちそうでごちそうは、せきはん、島の魚、サラダなどです。わたしにはありません。ごちそうは、とくべつなものです。わたしは、おかしとジューズです。先生方りゅう学生は、おいしそくに食べてくれてよかったです。新しい先生に「これからよろしくおねがいします」とあいさつをする「ごちそう、よろしく」おねがいします」とニコリわらって答えてくれました。よかったです。六にんの先生方と一人の新一年生、四人のりゅう学生をおかえしました。なかよくしていきたいです。

諏訪之瀬島学園三年
はま田明な

令和6年5月7日 南日本新聞「若い目」掲載

「私はきのうで二年生になりました。おねえちゃん先生の先生だった人です。すごくやさしい先生だと思ひました。だけど、お姉ちゃんに聞いたら、わすれものをしたときはきびしいと言っていました。もう二年生だから、一年生にいろいろなことをおしえたいと思ひます。たんにんの先生もほかの先生もがんばってくださいね。私たちががんばります。その中でも、じゅぎょうをがんばりたいと思ひます。おねえちゃんと、けんかをしてみようと思ひます。けんかをお母さんに言うときもあるけど、あまりけんかをしないようにしたいと思ひます。そのりゅうは、もう二年生だからです。」

悪石島学園二年
レニユエル・コレット



令和6年5月18日 南日本新聞「子供のうた」

わたしのクラスは、ひとりです
だけとせんせいがいるおかげで
べんきょうやうんどうができます
ひまわりきょうしつのもだちは
いつもやさしいです
わたしのことをまってくれます
まってくれてうれしいです
たいらじまがくえんは
いいことしかありません

平島学園一年
ひだか うみ



十島村で学ぶ

【小宝島で見つけた夢】
小宝島学園後期課程9年 島 弘大

僕は静岡からここ小宝島に山海留学生としてやってきました。ここに来るまで、僕は将来の夢がなく、進学したい高校もありませんでした。その時、兄が悪石島に山海留学をしてみたいと思うようになりました。また、小宝島で新しく寮ができるという話もあり、ますます小宝島に興味をもちました。

実際に小宝島に行ってみると、小宝島は海がきれいで自然が豊かでした。そして楽しそうに遊んでいる子どもたちを見て、ぜひここで山海留学生として生活したいと思ひました。

学校生活で大好きな行事の一つは、春の一日遠足です。この行事で釣りの楽しさを知ってから釣りにハマり、週に一度は釣りに行くようになりました。トビウオの時期にはGTを釣りに行くこともあります。釣り道具の準備はもちろん、自分で仕掛けをつくることもできます。自分のつくった仕掛けで魚が釣れるととても嬉しく、次はどのような仕掛けにしようかと考えるだけでワクワクします。

今年、先輩たちが受験の時「将来どのようなことをしよう」と自分自身考えました。僕はものをつくるのが好きなので、将来ものづくりの仕事に就きたいという夢を抱くようになりました。これから僕は勉強を頑張り、大好きなことを学べる高校に進学できるようにします。そして、これからの小宝島での生活を充実したものにしていきます。

【中之島学園からのメッセージ】
教諭 東園 祐子

十島村への赴任前、私は初めての離島赴任に不安を感じ、十島村への赴任経験がある恩師に連絡を取りました。

「としまはひとつ」「そこには鹿児島島の教育の原点がある」その恩師から言われた一言が今も私を支えており、中之島学園で児童・生徒と共に充実した毎日を過ごしています。

先日、十島村連合交流学習へ引率者として参加しました。七島の生徒と引率教員が一同に集まり、寝食を共にしながら過ごす中で、少しずつ生徒・教員も打ち解け、何かある度に共に話し合い・伝え合いながらの1週間は十島村の後期課程生を確実に成長させる貴重な経験となりました。また、教員同士も常に語り合い、連携を取り合い、時には笑い合いながらの引率は、私自身も先生方から良い刺激を頂き、まさに「としまはひとつ」を体感する機会となりました。

帰りのフェリーにて、ハイタッチをしながら「先生!来年の修学旅行でまた会おうね!」と言って下船していった生徒、「職員室は異なっても同じ十島村の教師としてこれからもよろしく」と温かな言葉を下さった先生、別れを惜しみ互いが見えなくなるまで手を振り合う生徒・教員の姿-全ての出会いに感謝し、今後も「としまはひとつ」の精神で教育活動に邁進します。

『教職員仲間であるあなた』への 私からのメッセージ

学校・校種間を越えて共に語り合うことができるのが、十島村の教育のよさの一つです。新たな価値観に触れながら、自己研鑽を積んでいこうと思ひます。村教研でお会いできることを楽しみにしております。